

提案趣旨説明書

作品タイトル：共有しよう という気持ちで真駒内を美しくする

提案の趣旨：

真駒内の未来に遺すべき都市景観があります。それは、1972年に開催された札幌冬季オリンピックの選手村建築群です。

高層の五輪団地H号棟は、真駒内駅前地区のランドマークとして重要な存在であり、成長した緑にも白銀の冬景色にも映える優れた建築物です。周囲のオープンスペースとの関係も秀逸といえます。

かつての公団住宅のバリエーションであるUR五輪団地は、緑化計画との調和に成功した稀有な実例で、建替えに移行する時期だからこそ、あえて後世に遺すだけの価値があるといえるでしょう。

宝石箱かと思ふような旧真駒内緑小学校の校舎（増築前の第一期工事分）は、新たな真駒内中学校の校舎として十分に活用可能と思われます。隣接する体育館もまた同様です。

これらの建物は、つくり手たちが想いをこめて、純粹にカタチにした最後の時代の作品に相当するのではないのでしょうか。昨今の建造物が失った「夢」が宿っているとでも説明したらよろしいのでしょうか。

五輪団地は、いわゆる今風のリフォームよりも、当時の雰囲気再現しつつ最新の設備に更新する修繕方法を採用することで、どれも似かよった仕様の民間マンションとは違う、時代を経た建物のみ獲得し得る付加価値が、将来若い世代に支持されるだけの輝きを発するに違いありません。これらはどれもこの街の資産であり、歴史なのです。そして、歴史を失った街に文化が育つことはないでしょう。

地下鉄真駒内駅に直近の道警宿舎は、5棟のうち2棟を残し（減築）、既存の樹木をそのまま活かしつつ「駅前ひろば」として観光客や区民にひろく開放します。これに伴って既存の駐車場の一部は区民と共有する余裕が生じ、ひろばにはカフェやレストラン等の店舗を点在させることで、緑ゆたかなオープンスペースをあらゆる人々と分かち合うことが可能となります。加えて、ここにアイストップとしての役割を担う交番を置くことで、安全かつ賑わいのある本当の意味での南区の玄関口が実現します。

ひろばは尽きることのない泉のように、樹々と芝生のまにまに顔みせる庁舎のなかを流れる園路となって、プールやテニスコート等のスポーツ施設、図書館や区民センター等の文化施設、真駒内中学校の普通科教室として継承される旧真駒内緑小学校の校舎たちを、時代も形式も飛び越え包み込んでゆくかのようです。実際これらは中学校としての役割は無論、区民と中学生が等しく共有することで施設間の垣根をも消し去り、少子高齢化へと移行する時代に対応した地域住民の拠り所を創出してくれるはず。なぜならば、真駒内駅前地区の中心には学校があり、ここは「みんなの学校」なのですから。

園路はやがて、緑あふれるエドウィン・ダン記念公園へとつながります。愛らしい西洋館を抱く公園は近くの川から引いた水が池をつくり、野鳥たちの棲家となり、更にちいさなせせらぎとなってどこまでも続いてゆきます。水辺の小道はゆたかな緑に縁取られることで趣ある散策路となって、きっとそこはお年寄りの人たちが過ごす施設の窓が笑顔の数だけ開かれて、道行く人々と共有されることでしょう。